

令和5年10月29日
優勝決定戦のベストショット



青松園A 三苦三球会 対 三苦ホーネッツ戦
一回裏、ライトへ確信の先制3ランHRを放ったホーネッツ三番西村選手。
写真：奈多フェニックス 山本 健一

青松園A 三苦地区同士の優勝決定戦を打力で制したホーネッツが二連覇達成！！

三苦三球会 00022 4 鮎川●-藤沢(隆)
三苦ホーネッツ 4015X 10 平川○、矢野-広木
HR：西村、矢野(三苦ホ) 3BH：堺(恭)(三苦ホ) 鮎川(三球会)
2BH：広木、西村、堺(恭)、佐藤(三苦ホ) 大津、岩本(三球会)

まず優勝決定戦に、いやソフトボールの試合に似つかわしくない光景を目にしましたので報告を。リーグの規則「喫煙はベンチ外で」とのことで各チーム認識しているとは思いますが、**双方のチームでベンチに腰掛けての喫煙が見られました**。優勝決定戦の緊張感ある試合を楽しみにしている者、試合状況取材している者からすると非常に残念な気持ちになりました。あと吸い殻の処理等も気になります。まさか側溝などに放り込んで見えなければいいと思っている人はいないと思いますが、個人の規則を逸脱した行いで嫌な気分をしている人がいることを肝に銘じてほしいものです。グラウンドは子供から大人まで使用するみんなのものです。全チームでの徹底を厳にお願いします。

以下試合レポート

日の出が日に日に遅くなり秋の深まりを感じる10月29日、まだ朝日が顔をのぞかせていない暗闇の中、令和5年度の優勝決定戦の舞台に駒を進めた三苦ホーネッツ・三苦三球会、そして審判、観客が集まり試合開始に向けて各々準備を進める。ともにプレーオフ一回戦を大差で勝ち抜いた両チーム、少

し雨もパラついたが準備万端整い無事朝7時にプレイボール。

三苦ホーネッツ朝川監督が先発に送り出した平川投手は、一回表三球会打線を三者凡退に切って取る上々の立ち上がりを見せ、初優勝を目指す三球会の前に立ちはだかる。守備からリズムを掴んだホーネッツは一回裏、先頭の広木選手が長打を警戒して深めに守っていたセンターの前に落ちるポテンヒットで二塁を陥れると、二番佐藤選手の四球を挟んで三番西村選手が打った瞬間それとわかる豪快な3ランHRをライトへぶち込み先制する。更に五番矢野選手も右中間にソロHRをぶち込み初回から4点をリードする展開。早く1点でも返したい三球会だが、二回三回とランナーを出すもホーネッツ平川投手の球威に押され効果的な一本が出ない。追加点の欲しいホーネッツは三回裏、一死から三番西村選手の目の覚めるような鋭い当たりが一塁手の脇を抜ける二塁打となる。続く四番塚（恭）選手も右中間へ二塁打を放ち1点追加。反撃したい三球会は四回表、四番大津選手がセンターへ二塁打を放つと続く五番藤沢（隆）選手が四球を選び無死一二塁。ここで朝川監督が間を取り平川投手を落ち着かせようとマウンドへ。しかしこの際ホーネッツ内野陣は誰もマウンドへは行かず……。この監督の試合に懸ける心情をくみ取れないホーネッツ内野陣にはやはり仕打ちが……。このチャンスに三球会六番浜口選手の打席で広木捕手がパスボール、さらに打ち取ったショートゴロを塚（恭）遊撃手がエラーし1点献上。更に続く七番塚太一選手のなんでもないサードゴロを矢野三塁手が普通に一塁アウトだけを取りに行くボーンヘッド。矢野選手の守備力ならば楽にホームもしくはセカンドのどちらかだけでもアウトに出来たと思われた。イケイケの三球会は一死二塁で八番渡辺選手がライトフライを打ち上げる。この嫌な空気を払拭したのがホーネッツ西村右翼手。タッチアップの二塁ランナーを三塁ヘストライク送球で刺すWプレーで失点を2で食い止めた。このプレーからホーネッツは流れを引き戻し、エラーで出塁した八番川原選手を二塁において、一番広木選手のタイムリーポテンヒット、二番佐藤選手の右中間二塁打、ヒーロー的活躍の三番西村選手は申告敬遠で二死満塁のチャンス。ここで四番塚（恭）選手は汚名返上とばかりに低めの球を体制が崩れながらもレフトフェンスまで持っていく走者一掃の三塁打。更に五番矢野選手のセンター前と鮮やかな集中打で一挙5点を挙げ試合を決定づける。最終五回表、マウンドにはホーネッツ二番手で矢野投手が上がる。この一年ホーネッツを支えてきた必勝パターンだ。しかし諦めない三球会は、一死から一番船橋（純）選手がセンター前、続く二番岩本選手がライトオーバーの二塁打で一死二三塁とすると、三番鮎川選手が意地の左中間への三塁打を放ち2点を返す。ここでやっと矢野投手の目の色が変わり、続く四番大津選手を三振、五番藤沢（隆）選手をライトフライに打ち取りホーネッツが10-4で勝利。史上初の4チームによるプレーオフを勝ち抜き、二年連続の優勝を決めた。

優勝決定戦を観戦しての感想は、ホーネッツの勝利は西村選手の活躍に尽きると思う。ムードメーカーであり鮎川投手の速球に振り負けないバッティングは先制3ラン、二打席目の二塁打で実証済みだが、やはり悪い流れを断ち切ったタッチアップの三塁への好返球が大きい。そのご褒美にウィニングボールが彼のもとへ飛んで行ったのであろう。一方三球会は試合前に各選手への対応や戦術等のアドバイスを行っていたりと工夫が見られたが、いかんせん先制パンチが大きすぎた。その原因は投球練習後のボール回しが乱れてうまくスタートが切れず、鮎川投手をはじめ三球会全体の心が整わないまま一回裏の守備に入ってしまったことだと筆者は思う。実際レギュラーシーズン最終戦のサンデーズ対フェニックス戦においても、引き分け以上で優勝の決まるサンデーズは初回のボール回しをもたついで集中力を欠いたまま試合に入り、結果フェニックス先頭の望月選手に初球HRを食らうと、追いつけないまま試合が

終わり結果 8勝2敗で4チームが並んで今回のプレーオフになった経緯がある。やはりきちんと集中してボールを回すことは大切である。そんな中で、三球会は二番岩本選手の全打席鋭い当たりを放ったバッティングが目をつけた。今後は首位打者も狙えるようなシユアなバッティングだった。実はこの試合、両チームともに下位打線にヒットが一本もなく、クリーンアップまでの差（三球会5安打うち長打3本、ホーネッツ8安打うち長打7本）が直接点差に結び付いた試合だった。ホーネッツの強力打線を相手にするなら、必ず先制点を2点以上奪い、こちらはミスをせず早打ちを誘い、2点以上のリードを保ったまま投手は継投で目先を変えつつ、いつの間にか最終回というような流れを作る必要がある。そのためには事前に相手選手の傾向の把握、当然遅刻無しで試合前の無駄な心配・労力の払拭、そして何よりもチームでの勝利への意思統一をしなければならない。難しいとは思いますが現状このプランに沿った戦いが有効だと思う。ただ、この試合ホーネッツはバント、盗塁等の機動力を全く使っていなかったことを考慮する必要もある。ともあれ、今年度を締めくくる優勝決定戦を無事に終えたことに安堵を覚える。

（記事・写真：編集部長 奈多サンデーズ 八島 久徳、写真：奈多フェニックス 山本 健一）



一塁側、三苦三球会整列。



三塁側、三苦ホーネッツ整列。



記録・審判は一回戦で敗れた奈多サンデーズと奈多フェニックスが合同で担当して試合開始。



三苦ホーネッツ先発の平川投手。



三苦三球会先発の鮎川投手。



一回裏、ポテンヒット二塁打、ホーネッツ一番広木選手。



確信歩きでHRの打球を追うホーネッツ三番西村選手。



先制の3ランを放った西村選手をお出迎え。



右中間へソロHRを放ったホーネッツ五番矢野選手。



三回表、チーム初ヒットを放った三球会二番岩本選手。



三回裏、ホーネッツ三番西村選手の痛烈な二塁打。



三回裏、一塁手の脇を抜く強烈な打球を放つ西村選手。



ホーネッツ四番堺（恭）選手の豪快な二塁打。



四回表、三球会四番大津選手の二塁打で出塁。



続く五番藤沢選手が四球を選びチャンスを広げる。



無死一二塁のピンチで間を取るホーネッツ朝川監督。



ホーネッツ西村右翼手から矢のような送球で三塁タッチアウト！



四回裏、一番広木選手二本目のポテンヒットがタイムリーに。



ホーネッツ二番佐藤選手の右中間へのタイムリー二塁打。



満塁で走者一掃の三塁打を放つ塚（恭）選手。



体制を崩しながらの塚（恭）選手の飛距離に驚くばかり。



五回表からリリーフ登板のホーネットス矢野投手。



五回表、一死からセンター前を放った三球会一番船橋（純）選手。



続いて鋭い当たりの二塁打を放つ三球会二番岩本選手。



ライトオーバー二塁打で反撃の狼煙を上げる三球会岩本選手。



2点タイムリー三塁打を放つ三番鮎川選手。



最後の打者がライトフライに打ち取られゲームセット。



ウィニングボールを大事に捕球するホーネッツ西村右翼手。



試合後挨拶。



胴上げ何回にするやあ？



1回、1回、そ〜れ、ワッショイ！



試合後の三苦三球会の面々も晴れやか。



二年連続和白リーグ優勝の三苦ホーネッツ。

それもプレーオフを勝ち抜いての価値ある勝利は天国の故・中村監督も喜んでおられることでしょう。

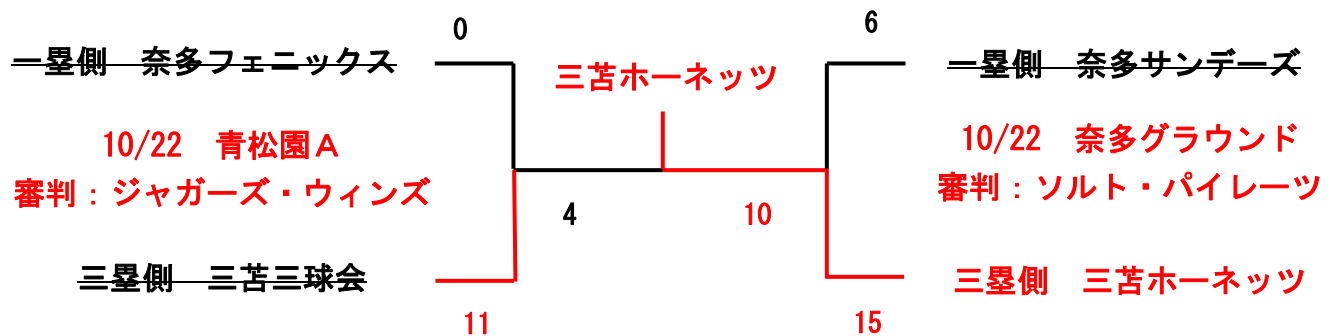
プレーオフの結果

優勝決定戦

10/29 青松園A

審判：フェニックス

サンデーズ



編集後記

新型コロナに振り回されたここ数年で和白リーグも参加チームの減少など大きく様変わりをしてきた。しかし悪いニュースばかりでなく新しい選手の活躍や往年の名選手の復活など嬉しいニュースも多々ある。かく言う私も佐賀県の武雄市から大分県の大分市へ転勤で引っ越し、朝6時に集合するため昨年まで朝4時半に家を出ていたが今では朝2時半に家を出て3時間半かけて下道で遅刻することなく通い、審判も主審を2回務めこの優勝決定戦の写真撮影・レポート書き・ホームページのアップを行っている。今年50歳を迎える私が打率でも5割近く打って、チームはプレーオフに進出しているのだから若い君たちはもっと出来る。私より上の方々ももっと出来る。思いに物理的な距離・時間は関係ない。本当に好きと思えるならば、全ては超越できると私は今年証明したと思っている。和白リーグ創設40年記念式典はコロナ禍で出来てはいないが、そういう思いの和白リーガーがもっと本気になればきっと素晴らしいものが出来る。優勝決定戦を終えた今、その時に備えて英気を養ってほしいと思う。

(編集部長：奈多サンデーズ 八島 久徳)

11月度運営会議

日時：令和5年11月11日(土) 19時～

場所：奈多公民館

令和5年度和白リーグ閉幕式

日時：令和5年12月10日(日) 開始時間未定(例年通りなら15時)

場所：三苦公民館

詳細は11月11日(土) 19時～の運営委員会で発表。

今年も各賞の表彰、監督の総括、激闘映像やります。

是非多くの参加を！